

実践記録（小2・図画工作科・学活・道徳など）

1 単元 友達にアドバイスをする言葉を考えてみよう

2 ねらい

学習用タブレットの正しい使い方について知り、「協働学習ソフトを使う際の「友達にアドバイスを送る時に大切なこと」について考えることができるようにする。

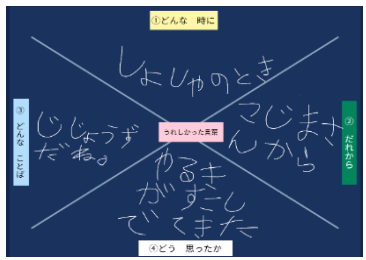
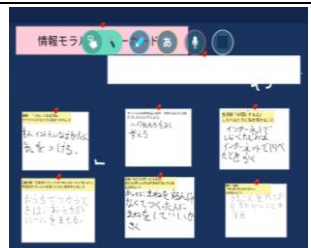
3 手立て




- ・ 日常モラルと機器の特性を収集するための「情報モラルマスターカード」
情報機器を使うときに気を付けることや情報モラルに関わる日常モラルについて、教科横断的に位置付け、情報モラルマスターカードにまとめることで、情報モラルの知識を集約できるようにする。
- ・ 学んだことを活用し、振り返るための「モラルチェックシート」
情報機器を使ってやりとりするときには、どのようなことに気を付ければよいかについて、モラルチェックシートで確認しながら学習者用タブレット端末を使って体験することで、学んだことを活用し、振り返ることができるようにする。

4 指導計画（11時間完了）

- (1) 道徳科「友達がつくったものは」・・・1時間
- (2) 国語科「うれくなる言葉」・・・4時間
- (3) 生活科「たいせつにするよ」・・・2時間
- (6) 道徳科「朝も昼も夜も使いたい」・・・1時間
- (7) 学級活動「学習用タブレットを上手に使おう」・・・1時間
- (8) 図画工作科「ざいりょうからのひらめき」鑑賞活動・・・2時間

5 実践の様子

時数	主な学習活動	
第1時	道徳科「角がついたかいじゅう」 「善悪の判断」について学習を深めた。はじめに主人公の気持ちを考え、クラス全体で共有した。まとめとして「やってよいのか、悪いのか分からないときにはどうしたらよいか」という発問に、児童から「周りの人に聞く」「人の気持ちをよく考える」などの意見が出た。	
第2時～第5時	国語科「うれくなる言葉」 右図のようなXチャートを使用して、今までに言われてうれしかった言葉を考えた。その後、ロイロノート・スクールで意見を共有し、普段使っている言葉でも、たくさんの友達を喜ばせていることに気付いた。最後に、友達の作品をほめる言葉を考えるという場面では、児童の一人が教科書に載っているアドバイスをしている言葉を見て「これは文句を言われているみたいだから、あんまり好きじゃない」と発言していた。	 <p>図: Xチャート。中心に「うれしかった言葉」があり、四象限に「しよしゃのとき」「まじまじから」「かきすこし」「いってまた」が書かれている。縦横軸には「どんな時に」「どう思ったか」が記されている。</p>
第6時～第7時	生活科「たいせつにするよ」 インターネットや本から調べたことをまとめたり、クイズにしたりする活動を行った。そして、著作権について学習し、インターネットや本で調べたことは、本の題名を記載することやインターネットで調べたことが分かるようにしておくことの必要性を学んだ。	 <p>図: 情報モラルマスターカードのスクリーンショット。様々なモラルに関する項目がリストアップされている。</p>

<p>第8時</p>	<p>道徳科「朝も昼も夜も使いたい」では、ゲームに夢中になって、日常生活がうまくいかなくなってしまう主人公の姿を通して、情報機器をどのように使っていけばよいかを考えさせた。はじめに普段、家庭での自分の行動を振り返った。次に、動画を視聴し、何がよくなかったのか、どうすればよかったのかを考え、意見交流をした。授業の終わりには「ゲームをする時間を決める」「勉強やお手伝いをやってからやる」など、様々な意見が出され、その考えをお互いに見せ合った。</p>	
<p>第9時</p>	<p>学級活動「学習用タブレットを上手に使おう」では、「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」にある情報モラル学習サイトを利用した。はじめにタブレット端末でできることを考え、日ごろの生活で役立っていることを確認した。次にクラス全員でクイズに取り組んだ。ロイロノート・スクールのアンケート機能を使って、クイズの解答を多数決で1つ決めた。その後、動画を視聴し、タブレット端末を使うときに気を付けることや活用方法を確認した。子どもたちは「自分のIDやパスワードを教えない」「おうちで使うときは、おうちのルールを守る」「先生が話をしているときは、タブレット端末を触らない」の中から特に自分が気を付けたいことに順番を付けさせ、その理由を考えた。最後にタブレット端末を使うときに気を付けたいことを自分の言葉でまとめた。</p>	
<p>第10時 ～ 第11時</p>	<p>図画工作科「材料からのひらめき」の鑑賞活動では、自分が友達にアドバイスを送る言葉を考える活動に取り組んだ。はじめにペアを組み、鑑賞し合う作品を決めた。次にペアの作品について相手に伝えたいことを考えた。思い浮かばない児童については「褒めたいこと」「アドバイスしたいこと」を簡単に書くようにして、伝えたいことから具体的な言葉を考えて。その後、情報モラルマスターカードを使って、モラルチェックシートにチェック項目を作った。ここでは、国語科の「うれくなる言葉」の付箋を使用した。自分の付箋だけでは項目が少ないので、ロイロノート・スクールのカードを「送る」機能を使って、友達と考えを交換し、自分のチェックリストに付け加えていった。</p> <p>「優しい言葉を使っているか」「文句を言っているようになっていないか」「相手の気持ちを考えて言葉を選んでいるか」などの項目が付け足し、自分の言葉を見直した。最後に友達と鑑賞カードを送り合い、友達からカードをもらった感想を書いた。多くの児童が「もらってうれしかった」「次の学習にいかしたい」といった感想をもつことができた。</p>	

6 成果と課題

- 情報モラルマスターカードを使うことで、日常生活における情報端末を使う際に気を付けることを集約することができ、それを児童に一般化することができた。
- モラルチェックシートを活用することで、もらってうれしい内容か確認をしてカードを送ることができた。
- 児童にとってチェック項目を考えるという活動が難しかった。
- 取り扱う内容が広範囲に及ぶため、学んだことを総合的に使うためには、継続して実践を重ねる必要があり、カリキュラムマネジメントの研究が必要だと感じた。